

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第4回朝霞第三中学校学校運営協議会	
開催日時	令和8年2月3日（火） 午前9時30分から午前11時30分まで	
開催場所	朝霞第三中学校 図書室	
出席者の職・氏名	・会長 白鳥 成章 ・副会長 關野 武男 ・委員 中村 菜々子・委員 渡辺 聡・委員 正野 寛樹 ・校長 野口 邦彦 司会・記録：犬木 勝（教頭）	
欠席者の職・氏名	・委員 金子 雅美 ・委員 後藤 顕一	
議題	（1）学校評価について （2）令和8年度の朝霞三中の教育について （3）令和8年度以降の部活動について （4）その他	
会議資料	（1）第4回学校運営協議会次第 （2）学校評価資料 （3）令和9年度埼玉県公立高校入学者選抜実施基本方針	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
会議録の確認方法 司会・記録 による確認		
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 会長あいさつ

- ・3月7日地域コミュニティの希薄化対策イベント4市合同にて実施予定。
総合的な学習の時間で地域を巻き込んでの学習が今後進んでいくので保護者は地域に関わるべきである。

2 学校長あいさつ

- ・学校運営協議会の在り方について大きな視点で考えていく必要がある。
保護者との教育観の共有のために実施した教育講演会を実施する必要がある。
評価は良くなってきている。生徒主体の取組を増やしていく。
- ・三中に来たい子が増えている。令和8年度1年は35人学級で9クラス予定。

3 協議

（1）学校評価について

●校長より説明

- ・関係者評価の実施ご協力をお願いします。
- ・5つの柱と10項目の評価を行った。
- ・生徒アンケートについて
9割近くが3, 4評価で良好に評価している。逆に1, 2評価は減っている。
「学校生活は楽しいか」について9割良好な評価である。
- ・保護者アンケートについて
回収率が少ないが8割は良好な評価である。
基礎学力の定着については厳しい評価もあるが埼玉県学力学習状況調査の結果では高い数値である。また学力を伸ばした生徒の割合が非常に高い。
- ・教職員アンケートについて
昨年度は一昨年度に比べて大きく上がっていたが、今年度まだ満足していない現状がある。
- ・生徒の自己肯定感（埼玉県学力学習状況調査質問紙回答より）が高い生徒が多い。
学校が好き、良さを感じる割合が高い。
- ・体力テスト数値について
体力的に高いが、俊敏さについてはやや低い。

委員D：数値について全数値を足して100%にならないのは回答なしがいるということか。

委員：回答率が低いのが気になる。保護者の関心がないのであれば問題であると思う。

委員D：回答しても改善される実感が持てないのではないか。

委員C：記名式にして実施した方が責任をもった回答になっていいのではないか。

委員B：関心がないのか、信頼しているのか見極める必要がある。

委員A：学年を追うごとに回答率が減るのは安心している部分も大きいという感覚はある。

委員D：前向きではあるが、回答率の低さは何とかしたほうがよい。

校長：回答率の低さと、講演会への参加率の低さは比例している感がある。

委員C：保護者の自由記述はすべて明示していくのか。

事務局：個人的なものもあるのでピックアップして学校だより等で伝えていく。

(2) 令和8年度の教育活動について

●事務局より説明

- ・定期テストの時期について。多面的な評価を進めることや教育活動の連続性の重視。自動採点システムの導入要望について。総合的な学習の時間の大幅な見直しについて。

委員D：自動採点システムの導入は市の予算で行うべきではないか。

自動採点システムの子どもへのメリットは何か。

さららドリルの活用についても検討が必要である。

事務局：採点システムの導入により教職員に時間が確保され、より生徒と向き合った教育活動や個別対応が可能になること、生徒一人一人に自身の回答の分析等の返却が可能になり、学習効果が上がることなどがメリットとして挙げられる。また子どもの自立的な学びにつながるととらえる。

委員A：子どもたちへの利益還元を鑑みると、やはりPTAや保護者全体で教育活動に関わっていくことの必要性を訴えていく必要がある。子どものために公平に環境整備していけるようにできるとよい。

(3) 令和7年度以降の部活動について

●朝霞市教育委員会作成の動画を視聴

●校長より説明

- ・次年度は、これまで通り顧問はつくが土日の活動については強制するものではない。平日はこれまでどおりである。

委員D：朝霞市の方向性はわかったが、はっきりしないところがあるのはなぜか。

校長：県から一律の方向性が出ていないので、市として現状に即した移行策としてできることを進めている。

委員D：令和10年度からは休日の部活はなくすということなら教員は指導をしなくてよいということではないか。別の管理者が必要であるということか。

校長：費用は受益者負担ということになる。部活ごとの運営は厳しいので、一斉に管理する母体ができることになるのではないか。

委員D：令和10年度以降については未確定な部分が多く現状の決定ということか。

校長：教員以外で指導者がいれば、そういった人材に運営してもらうことも可能。

委員E：時間をかけて進めていくのはよいと思う。いきなり導入すると他市のように理解を得られないことになる可能性がある。

(4) その他

① 入試制度の変更について校長より説明 ※別紙

② 自治的な活動の推進について

委員D：校則の意味を生徒自身に考えさせたり、明確に示して確認していくことが必要である。

4 連絡

① 令和7年度の委員出席状況確認

② 卒業式、入学式の参列について

③ 朝霞市学校運営協議会委員研修の開催について

2月24日(火)午前中 オンラインにて

5 閉会のことば 副会長より